



中間考査が終わりました。2年生は修学旅行が控えていますね。気温差が大きいので、体調管理には十分気を付けて過ごしていきましょう。

梅毒 県内昨年最多138件 (朝日新聞平成30年6月8日(金)より)

性感染症の梅毒の感染報告が県内で急増している！昨年度は前年比3倍弱。

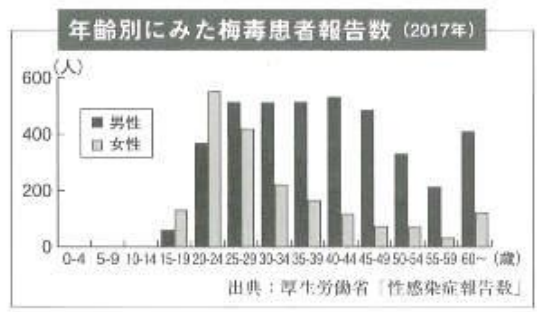
感染者が急増している梅毒

指導/プライベートケアクリニック東京 院長 尾上 泰彦 先生

性感染症は、性的接触により体液などに含まれる病原体に感染することによって起こる感染症です。性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、HIV感染症などがありますが、近年では、梅毒の感染者が急増しています。

●急増している梅毒

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体に感染することによって起こります。感染して3週間ほどたつと、感染した場所(性器、肛門、口など)にできもの、しこりなどができます。治療しなくても数週間で消えますが、その後数か月たって、手足や全身に赤い発疹が出るのが特徴です。感染初期には症状に気づかないことも多く、知らない間に感染を広げてしまうことがあります。

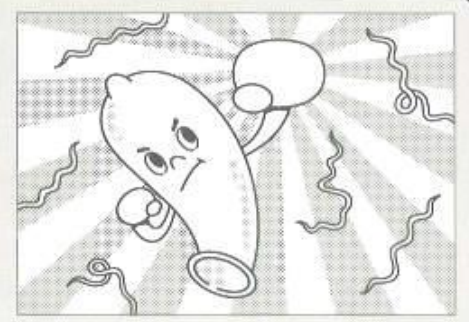


女性は20歳代、男性は20～40歳代が多くなっています。

| | | |
|----|-------|--|
| 梅毒 | 症状・特徴 | <ul style="list-style-type: none"> 第1期(感染後約3週間)：性器、口、肛門などにできもの、しこり、ただれができる。その後、自然に症状は消える。 第2期(3か月～3年)：手のひらや足の裏、全身などに赤い発疹ができる。その後、症状は消えるが治療をしないと病気が進行する。 第3期(3年以上)：全身の皮膚や筋肉にゴムのような腫瘍ができる。 第4期(10年以上)：大動脈炎、大動脈瘤などが起こり心臓、脳などにも影響。 |
| | 感染経路 | 性的接触(性器や口)、妊婦が感染すると胎盤を通して胎児にも感染する。 |
| | 治療 | 抗生物質が有効 |

性感染症予防のために

- ・性的接触をしない
感染予防のためには、性的接触をしないことが一番の対策になります。特に不特定多数の人との性的接触は感染リスクが高まるので、避けましょう。
- ・コンドームで予防
コンドームをすれば100%安全というわけではありませんが、性感染症を予防する効果はあります。



スマートフォンのゲームやSNS、などのインターネットの使い過ぎで日常的に支障をきたす「ネット依存」の疑いが強い中高生が全国で約93万人に上ることが、今回の厚生労働省の調査でわかった。5年前と比較して40万人増え、特に中学生で倍増した。授業中の居眠りや遅刻など学校生活にも支障が出ている。

ネット依存の危険度がわかる質問項目

8項目のうち、5項目以上に当てはまると、ネット依存の疑い

- ネットに夢中になっていると感じているか
- 満足のため使用時間を長くしなければと感じているか
- 制限や中止を試みたが、うまくいかないことがたびたびあったか
- 使用時間を短くしようとして落ち込みやイライラを感じるか
- 使い始めに考えたより長時間続けているか
- ネットで人間関係を台無しにしたことがあるか
- 熱中しすぎを隠すため、家族や学校の先生らにうそをついたことがあるか
- 問題や絶望、不安などから逃げるためにネットを使うか

厚生労働省研究班調査票から

対処法

- ・現実の世界でインターネット以外の楽しみを見つける。とまかく数日、DVDなどを見てインターネットへのアクセスをやめて、他に関心を振り向けてみる。
- ・SNSも「あの人はあまり連絡をしない人」という認識が広まると、返事を返さなくても他の人から何とも思われなくなることも多いので、キャラ変更も一つの方法。

⇒ 裏面：深刻！「スマホ10時間1日1食」朝日新聞平成30年7月16日(月)より

先生方もAED講習会を受けました!(^^)!



万が一に備え、先生方も年1回はAEDの講習会を受けています。みんなの大事な命を預かっていますから、いつでも対応の準備ができるように、心と技術の確認をしています。

AEDは生徒玄関の北側に箱型のケースに入っています。開けた時には、「ピー!!!ピー!!!ピー!!!」と大きな音がしますが、大丈夫です。慌てず落ち着いて対応しましょう。

スクールカウンセラー相談日

次回の相談日は11/16(金)です。予約制になっていますので、相談がある場合は、担任の先生か保健室へ連絡をしてください。保護者の相談も受け付けていますので、遠慮なく担任に連絡をください。一緒に解決策を考えていきましょう。



お知らせ

3年生健康教育10/24(水)6限
 内容：性と生のおはなし
 講師：中国労災病院 上原助産師さん
 場所：体育館

スマホ10時間 1日1食



第1部 依存リスク②

5月上旬、千葉県に住む高校1年の男子生徒(15)を、両親と双方の祖父が4人で押さえこみ、手足を縛って車に乗せた。「入院なんて絶対やだ。スマホ返せ」

男子生徒はその日、ネット依存症の入院治療のため国立病院機構久里浜医療センター(神奈川県横浜須賀市)に向かった。嫌がったのは、ゲームで特別なキャラクターがもらえるイベントが始まっていたからだ。検査でエコノミークラス

症候群の発症リスクが極めて高い状態とわかった。長時間、同じ姿勢でいることで起き、肺の血管が詰まって死亡する恐れもある。「入院させていなければ、倒れて救急搬送されていたかもしれない」と母親(47)は振り返る。

男子生徒は昨年暮れ以降、自室のベッドで1日10時間以上、スマホをいじった。食事は1日1食。水分もほとんどとらなかった。

昨夏までは常に学年で5番以内の成績。バスケとボール部の練習にも熱心だった。それが9月以降、スマホにのめりこむ時間が増えた。8月末の模擬試験が最悪の成績で、塾講師に「お前はクラスのおまけ

だ」と言われて傷ついた。塾をやめて自宅で受験勉強を続けたが、スマホに熱中し、学校を休む日も出てきた。両親がスマホを取り上げると暴力を振るった。

当初は、対戦ゲームに熱中したが、ネット上で同年代の子らと親しくなり、LINEの無料通話で話すようになった。LINEには複数の参加者が同時に会話できる機能がある。男子生徒は100以上のグループに所属し、15時間連続で話していたこともある。

昨年12月から5+以上やめた。ほかがこけて目にくまができ、風呂にも入らず、歯も磨かない。母親は心配で様々な機関に助けを求めた。

教育委員会の相談窓口では「飽きればやめるから好きなだけスマホをやらせてあげれば」と言われた。そんな頃、男子生徒の状態に酷似しているネット依存症患者の新聞記事を読んだ。久里浜医療センターの予約をとるために約300回電話をかけ続けた。

男子生徒は2回の外来診療を経て入院。幸い、意気投合できる患者仲間がいた。1日3食食べ、週3回は体育館で汗を流した。体重は元に戻り、教科書を取り寄せて勉強を始めた。

6月中旬に退院。休日もあるが高校に通っている。夜はスマホを家族全員で金庫にしまおうという約束も守っている。「自暴自棄になって完全に捨てていた人生を取り戻せた。将来は医学部に進学し、司法試験も受けたい」と夢を語る。

(大岩ゆり)